

レジメン名

Epcoritamab

出典 エプキンリ皮下注適正使用ガイド

実施部署区分

☒入院 ☒外来 ☐処置

第1サイクルの初回の48時間と投与再開後の1サイクル

目の初回の投与48時間は必ず入院管理

対象疾患

大細胞型B細胞リンパ腫※
濾胞性リンパ腫

☒進行・再発
☐補助療法(術前・術後)
☐初発

※びまん性大細胞型B細胞リンパ腫
高悪性度B細胞リンパ腫
原発性縦隔大細胞型B細胞リンパ腫

CRS※2	Grade3以下	回復するまで休薬	
	Grade4	投与中止	
	Grade2以下	回復するまで休薬	
	Grade3以下	回復するまで休薬	
免疫エフェクター細胞関連神経毒性症候群	Grade3以下	再発した場合、投与中止	
	Grade4	投与中止	
PLT	5万/mm ³ 未満	ANC	500/mm ³ 未満
その他	腫瘍崩壊症候群(TLS):回復するまで休薬		

※2 CRS: サイトカイン放出性症候群

1クール期間 28日※3 総クール数 PDまで

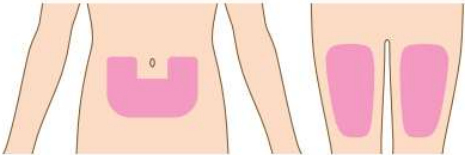
(次のクールまでの標準期間)

※3 以下のいずれかに該当する投与遅延があった場合は、サイトカイン放出性症候群を軽減するために、1サイクル目の投与方法に戻して再び投与を開始すること。

- ・0.16mgと0.8mgの投与間隔が8日を超えた場合
- ・0.8mgと48mgの投与間隔が14日を超えた場合
- ・48mgの投与間隔が6週間を超えた場合

その後は、予定されていた次の投与サイクル(投与を延期したサイクルの次の投与サイクル)の1日目から投与を再開すること。

サイトカイン放出症候群出現時は、Grade別に別紙管理ガイドランスに従って対処すること★CRS管理ガイドランス項へ

薬剤名・略号	1日投与量	投与方法	投与速度(時間)	投与日(d1、d8等)
エプコリタマブ(エプキンリ)	0.16mg	皮下※4		1コース目: d1
エプコリタマブ(エプキンリ)	0.8mg	皮下※4		1コース目: d8
エプコリタマブ(エプキンリ)	48mg	皮下※4		1コース目: d15、22
エプコリタマブ(エプキンリ)	48mg	皮下※4		2、3コース目: d1、8、15、22
エプコリタマブ(エプキンリ)	48mg	皮下※4		4～9コース目: d1、15
エプコリタマブ(エプキンリ)	48mg	皮下※4		10コース目以降: d1
※4 繰り返し皮下注する場合、特に週1回投与(1～3サイクル目)では、大腿部、腹部等に左右交互に投与するなど同一注射部位を避けてください。(下記参照)				
				

1日投与順 (経時的にプレ Medikation・ポスト Medikation、 溶解液まで含む)
<1コース目> day1 エプキンリ皮下注 0.16mg＋生食0.968mL (4mg/0.8mL＋生食4.2mL→1.6mg/2mL＋生食8mL→0.16mg/mLのうち1mLを皮下注)
day8 エプキンリ皮下注 0.8mg＋生食0.84nL (4mg/0.8mL＋生食4.2mL→0.8mg/mLのうち1mLを皮下注)
day15,22 エプキンリ皮下注 48mg
<2,3コース目> day1,8,15,22 エプキンリ皮下注 48mg
<4～9コース目> day1,15 エプキンリ皮下注 48mg
<10コース目以降> day1 エプキンリ皮下注 48mg
●CRSを軽減させる薬剤の投与 <1コース目> day1,8,15,22 エプキンリ投与30～120分前に内服 デカドロン 15mg ボラミン 2mg アセトアミノフェン 650～1000mg day2-4,9-11,16-18,23-25 デカドロン 15mg(投与後翌日～3日目まで)
<2コース目以降> 前回投与後にGrade2又は3のCRSが現れた患者 エプキンリ投与30～120分前に内服 デカドロン 15mg デカドロン 15mg(投与後翌日～3日目まで) 投与後にGrade2以上のCRSが現れなくなるまで投与を行う
*本剤投与時は、TLS・CRSを予防するため十分な水分補給を実施すること。